

西部サービス株式会社

2018 年度 CSR報告書

(対象期間 2018 年4月1日～ 2019 年3月31日)



作成日: 2019年8月5日

目 次

項 目	ページ
環境経営方針	2
組織の概要	3
事業・製品の紹介	
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	4
許可の内容	5
廃棄物処理フロー	
環境負荷の実績	6
環境経営目標及び実績	
環境関連法規制等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無	14
緊急事態対応訓練	
代表者による全体の評価と見直し・指示	15
これまでの環境活動の紹介	



皆様のビジネスをより環境と人に優しくするそれが私たちの仕事です。

業界初「光学選別」での処分業許可取得と、近畿一円の物流ネットワークを確立し、

お客様の様々な状況に対応できるよう、各種機材も取り揃えております。

堅実性と透明性をモットーに、業界のプロとして、ベストソリューションをご提案し、環境への配慮、

処理フローの透明性、安心のサービスでお客様の信頼を築いて参ります。

産業廃棄物から固形燃料化プラントへ、工場のオートメーション化により

RPFの大量生産と低コスト処理を実現しています。

産業廃棄物処分業優良許可認定を取得し、環境に優しく、循環型社会の創造を目指しています。

環境経営方針

＜企業理念＞

- ・顧客のニーズに応えて、安心、安全、健全なリサイクル事業を推進します。
- ・再資源化事業を通して、環境問題に取り組み、地域に貢献する企業を目指します。
- ・事業の発展に努め、会社の繁栄と社員の幸福を実現します。

＜基本理念＞

西部サービス株式会社は、大阪市及び神戸市にリサイクル工場2工場を立地し、産業廃棄物処理事業及び産業廃棄物のリサイクル活動を通じて社会に貢献し、全従業員の幸福と生活文化の向上を目指すと共に、持続可能な資源の利用、気候変動の緩和及び気候変動への適用並びに、生物多様性及び生態系の保護を推進します。

＜環境方針＞

- 1.環境マネジメントシステムを構築し、環境パフォーマンスを向上させる為、継続的改善を図る事により、積極的に環境保全活動を推進します。
- 2.環境関連の法規制及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
- 3.当社の事業活動、製品及びサービスに関わる環境側面を常に認識し、汚染予防及び環境保護を推進すると共に、環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。その中で次の項目を環境管理の重点テーマとします。
 - ①産業廃棄物の受託量増加及び売上増加に取り組みます。
 - ②受託した産業廃棄物に対し積極的にリサイクル率を向上させます。
 - ③一般車輛・収集運搬車輛及び工場内重機の燃料の有効利用により使用量を削減します。
 - ④照明、各種設備機器などに使用する電力の削減及び、効率的な使用に努めます。
 - ⑤RPF(石炭の代替燃料)の製造に取り組みます。
 - ⑥事業系一般廃棄物の削減に努めます。
 - ⑦水使用量の削減及び、効率的な使用に努めます。
 - ⑧自らが生産、販売、提供する製品及びサービスに関し、環境負荷低減に努めます。
- 4.環境目的、目標を定めた上でそれを推進、見直す事により環境マネジメントシステムの発展を図ります。
- 5.従業員が基本的な考え方を認識し、環境方針に基づく行動が出来る様に従業員教育を行います。
- 6.環境経営の継続的改善に取り組みます。
- 7.尚、環境方針は一般の人に公表します。

制定日：2018年7月25日

西部サービス株式会社

代表取締役 片境 邦喜

□組織の概要

更新日：2019年6月14日

- (1) 名称及び代表者名
西部サービス株式会社
代表取締役社長 片境 邦喜
- (2) 所在地
本社・大阪工場 大阪府大阪市淀川区田川北三丁目4番46号
神戸工場 兵庫県神戸市東灘区住吉浜町17番
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
環境管理責任者 管理部総務課 日吉 弘幸 TEL:078-857-3818
担当者 営業部総務課 碓 薫 TEL:078-857-3818
- (4) 事業内容
産業廃棄物の中間処理業及び収集運搬業とRPF(石炭代替燃料)の製造及び販売

(5) 事業の規模

法人設立 昭和63年11月
資本金 2000 万円
売上高 11 億円 (事業期間4月～翌年3月)

	本社・大阪工場	神戸工場
従業員	16 名	36 名
延べ床面積	760 m ²	4950 m ²

受託した産業廃棄物の処理量

	2018年度	2017年度
廃棄物受託量	29,360 t	32,021 t
①RPF製造量	13,778 t	21,922 t
②フラフ燃料製造量	1,465 t	0 t
③有価物排出量	772 t	1,733 t
外部搬出量(※①②③以外)	13,395 t	8,427 t
リサイクル率 ※1	54.5 %	73.9 %

※1 自社基準として、①②③のみをリサイクル率としてカウント。焼却(サーマルリサイクル)などは除外。

車輛一覧

車種	台数	備考	車種	台数	備考
ユンボ	7 台	大阪1/神戸6	4tコンテナ車	6 台	大阪工場
フォークリフト	7 台	大阪3/神戸4	5tコンテナ車	2 台	大阪工場
ホイールローダー	1 台	神戸工場	10tコンテナ車	2 台	大阪工場
スーパー	1 台	神戸工場	5t塵芥車	4 台	大阪工場
営業車	9 台	神戸工場	4t塵芥車	1 台	大阪工場
合計	25 台		キャブオーバー	3 台	大阪工場
			合計	18 台	

主要設備

名称	台数	基
2軸破碎機	2	基
選別機	3	基
磁選機	2	基
1軸破碎機	2	基
成形機	2	基

設備許可能力

処理能力(最大値)	
①選別・破碎施設	273.16t/日(汚泥)
②破碎施設	66.40t/日(汚泥)
③選別施設	390.72t/日(がれき類)
④光学選別施設	650.88t/日(金属くず)
⑤減容固化施設	273.40t/日(汚泥)
⑥破碎施設	138.52t/日(汚泥)
⑦破碎・減容固化施設	66.40t/日(汚泥)

積み替え保管施設

名称	保管面積	保管上限	積上げ高さ
西部サービス㈱大阪工場	184 m ²	280 m ²	3 m
西部サービス㈱神戸工場	62.4 m ²	116.4 m ²	5 m

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名：西部サービス株式会社
対象事業所：神戸工場(神戸市東灘区住吉浜町17番)
本社・大阪工場(大阪市淀川区田川北三丁目4番46号)

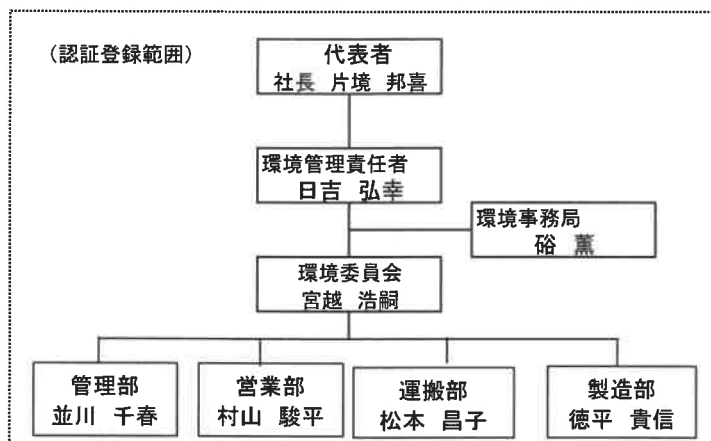
活動：産業廃棄物中間処理及びRPF製造販売、産業廃棄物収集運搬及び積み替え保管業

□事業の紹介

当社に持ち込まれた産業廃棄物を、作業員の手選別を始め、高度な機械を使い、混合廃棄物を細かく分別し、RPFを製造するための原材料を選別していきます。
これまで再生利用が困難であった廃プラスチックでRPFを製造し、石炭の代替品となるクリーンでエコロジックな燃料を販売しています。

□環境経営組織図及び役割・責任・権限表

更新日：2019年6月14日



	役割・責任・権限
代表者(社長)	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、環境委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
部門長	・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

口許可の内容

産業廃棄物収集運搬業許可の内容

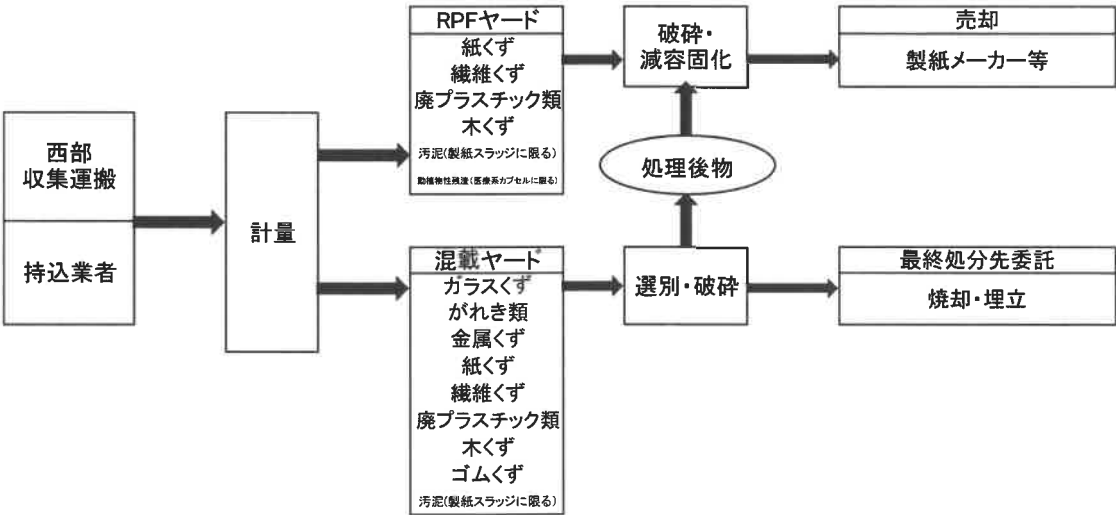
許可区域	許可番号	許可年月日	許可有効年月日	積替保管	廃棄物の種類																
					燃え殻	汚泥	廃プラスチック	木くず	紙くず	繊維くず	ゴムくず	ガラス・コンクリート・陶器くず	がれき類	廃油	廃酸	廃アルカリ	金属くず	動植物性残さ	鉱さい	ばいじん	
大阪市	6610018706	平成26年7月25日	平成31年7月26日	有	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
大阪府 ★	2700018706	平成28年11月22日	平成35年11月21日	無	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
兵庫県 ★	2803018706	平成29年2月20日	平成36年2月19日	無	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
神戸市 ★	6910018706	平成28年4月15日	平成35年4月14日	有	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
京都府	2600018706	平成27年8月11日	平成32年6月20日	無	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
奈良県	2900018706	平成27年8月10日	平成32年8月9日	無	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
和歌山県 ★	3000018706	平成29年9月29日	平成36年9月28日	無	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
滋賀県	2501018706	平成27年4月13日	平成32年3月29日	無	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
三重県	2400018706	平成27年3月27日	平成32年2月15日	無	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
鳥取県 ★	3101018706	平成29年12月10日	平成36年12月9日	無	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
東京都	1300018706	平成29年11月10日	平成34年11月9日	無	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
千葉県	1200018706	平成30年1月10日	平成35年1月9日	無	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		

産業廃棄物処分許可の内容

許可区域	許可番号	許可年月日	許可有効年月日	事業の範囲	廃棄物の種類										
				中間処理	廃プラスチック	木くず	紙くず	繊維くず	ガラス・コンクリート・陶器くず	がれき類	金属くず	汚泥（製紙スラッジに限る）	動植物性残渣（医療品カプセルに限る）	ゴムくず	
神戸市 ★	6920018706														
		平成28年4月15日	平成35年4月14日	選別・破碎	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		平成28年4月15日	平成35年4月14日	破碎	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		平成28年4月15日	平成35年4月14日	選別	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		平成28年4月15日	平成35年4月14日	光学選別	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		平成28年4月15日	平成35年4月14日	減容固化	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		平成28年4月15日	平成35年4月14日	破碎・減容固化	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

★ 優良許可認定

口廃棄物処理フロー



□主な環境負荷の実績(全社) (2019年6月14日現在)

項 目	単位	2016年度	2017年度	2018年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	2,942,091	3,149,182	2,642,507
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	kg	-	-	323
総排水量	m ³	8,101	7,371	6,237

□環境経営目標及びその実績(全社) (期間 2018年4月1日～2019年3月31日)

年 度 項 目			2017年度	2018年度		評 価	2019年度	2020年度
			基準年	目標	実績		目標	実績
電力使用量削減による二酸化炭素排出量削減(原単位)	kg-CO2		2,362,379	-	1,852,392		2,291,508	2,267,884
	kwh/t		173.91	170.43	139.54	○	168.69	166.95
	基準年度比			98%	80%		97%	96%
都市ガス使用量削減による二酸化炭素排出量削減	kg-CO2		1,835	1,798	1,758	○	1,780	1,762
							-	-
	基準年度比			98%	98%		97%	96%
自動車・重機燃料使用量削減による二酸化炭素排出量削減	kg-CO2		784,968	769,268	788,358	×	761,418	753,569
	基準年度比(重機)			98%	102%		97%	96%
上記二酸化炭素排出量合計		kg-CO2	3,149,182	-	2,642,508	○	3,054,706	・ 3,023,215
一般廃棄物の削減		kg	-	現状把握	814		2019年度数値から	2019年度数値から
		基準年度比			-		98%	97%
リサイクル率		%	74%	75%	55%	×	76%	78%
		基準年度比						
水使用量	神戸工場	m ³ /t	0.220	0.216	0.198	○	0.213	0.211
		基準年度比		98%	90%		97%	96%
	大阪工場	m ³	314	308	434		305	301
		基準年度比		98%	138%		97%	98%
溶剤使用量削減(あるいは適正管理)			PRTRに該当する物質の取扱はありません					

□主な環境負荷の実績(神戸工場) (2019年6月14日現在)

項 目	単位	2016年度	2017年度	2018年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	2,389,275	2,613,459	2,086,550
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	kg	-	-	604
総排水量	m ³	7,459	7,057	5,803

□環境経営目標及びその実績(神戸工場) (期間 2018年4月1日～2019年3月31日)

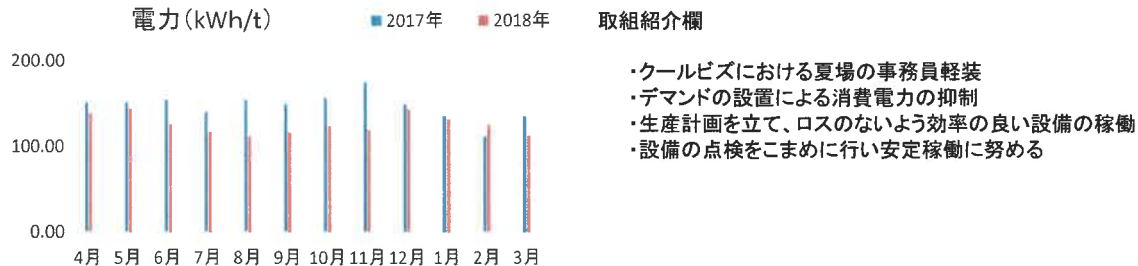
年 度		2017年	2018年		評 価	2019年	2020年
		基準年	目標	実績		目標	目標
電力使用量による二酸化炭素削減(原単位)	kg-CO ₂	2,339,800	-	1,814,713	○	2,269,606	2,246,208
	kWh/t	148.22	145.26	125.37	○	143.77	142.29
	基準年度比		98%	85%		97%	96%
都市ガス使用量による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	1,780	1,744	1,726	○	1,727	1,709
			-	-		-	-
	基準年度比		98%	97%		97%	96%
自動車・重機燃料使用量による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	271,880	266,442	270,111	×	263,723	261,005
	km/ℓ(営業車)	13.15	13.28	14.54	○	13.41	13.54
	ℓ/t(重機)	2.91	2.86	3.18	×	2.83	2.80
	基準年度比(営業車)		101%	111%		102%	103%
	基準年度比(重機)		98%	109%		97%	96%
上記二酸化炭素排出量合計		2,613,459	-	2,086,550	○	2,535,056	2,508,921
一般廃棄物の削減	kg	-	現状把握	604		2019年度数値から	2019年度数値から
	基準年度比					98%	97%
受託廃棄物のリサイクル率の向上		74%	75%	55%	×	76%	78%
水道水使用量の削減	m ³	7,057	-	5,803	○	6,845	6,775
	m ³ /t	0.220	0.216	0.198	○	0.213	0.211
	基準年度比		98%	90%		97%	96%
溶剤使用量削減(あるいは適正管理)		PRTRに該当する物質の取扱はありません					

□環境経営計画の取組結果とその評価 神戸工場

数値目標:○達成 ×未達成

神戸工場

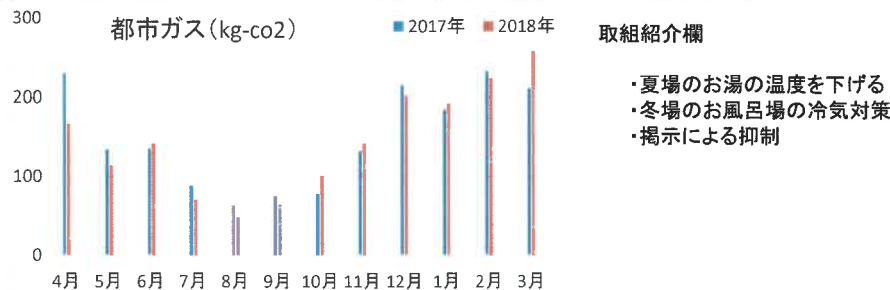
電力使用量による二酸化炭素削減(原単位)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	前年度と比べると、受入量を減少させ、RPF燃料製造からフラフ燃料製造へシフトしていることから、電力使用量の数値は低下傾向となっています。ただ受入量が減っても、選別をしっかりと行い、RPF+フラフ燃料は増産させる事が目標になるため、今後は電力使用の評価は売上をベースとした原単位(電力使用量÷売上)で計算していく。効率の良い設備稼働に努めていく。
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	△	
・デマンドの設置による計測	○	
・生産計画調整	○	
・機械トラブルの削減		



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017年	151.92	152.27	155.35	140.94	154.66	150.09	157.16	174.92	149.91	135.75	111.90	134.67
2018年	138.97	143.38	125.66	116.75	112.53	116.02	123.85	119.88	144.24	131.66	125.78	112.45

神戸工場

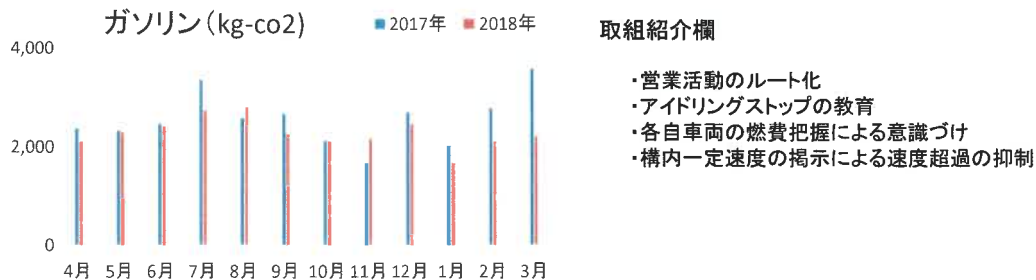
都市ガス使用量による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	今年の猛暑の関係で夏場のお湯の使用は低温度で費用も控えられていると思うので、冬場にかけて温度を一定に保てるよう、寒気対策をしていきたい。3か月の数値でみると上がっているの、引き続き注意していきたい。
・お湯の適正温度の見直し	○	



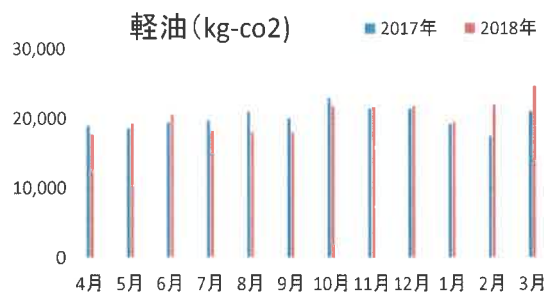
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017年	230	134	135	88	63	75	77	132	216	185	233	211
2018年	167	114	141	71	48	65	100	142	203	193	224	259

神戸工場

自動車・重機燃料使用量による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	工場作業員の新人へ教育を行い、重機における運転技術の向上によって軽油使用の削減につながるよう、新人受入教育を始め個人の力量を高めていく。また、営業部は営業ルートが無駄の無いよう今一度予定を組み直す。
・アイドリングストップ	○	
・効率的なルートでの営業活動	○	
・重機の運転教育	○	
・キーの挿しっぱなし禁止	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017年	2,369	2,321	2,465	3,362	2,583	2,668	2,124	1,656	2,699	2,002	2,782	3,572
2018年	2,096	2,300	2,409	2,736	2,797	2,255	2,098	2,163	2,466	1,663	2,098	2,210



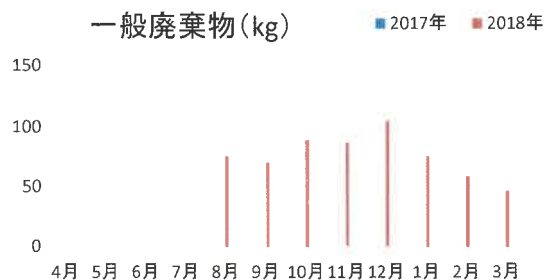
取組紹介欄

- ・構内一定速度の掲示による速度超過の抑制
- ・安全教育による重機の扱いのレクチャー
- ・新人教育の徹底

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017年	19,005	18,586	19,444	19,734	20,977	19,998	22,921	21,489	21,440	19,201	17,485	20,998
2018年	17,694	19,134	20,538	18,051	18,061	18,058	21,810	21,567	21,779	19,532	22,050	24,547

神戸工場

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	-	まずは現状の排出量を確認することからはじめ、その後に削減の取組計画を立てていく。
・分別の徹底	○	
・コピー用紙、シュレッダーゴミのRPF化	○	
・必要書類のデータ化	○	
・電子契約移行	×	



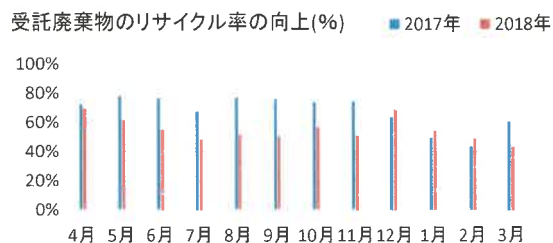
取組紹介欄

- ・コピー用紙の両面化
- ・ペーパーレス会議
- ・契約書の電子化

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2018年	0	0	0	0	75	70	88	87	105	75	58	46

神戸工場

受託廃棄物のリサイクル率の向上	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	RPF排出先の縮小からリサイクル率の達成が難しくなっているが、作業員の廃棄物の知識を教育し、より高いレベルで手選別が行える様に指導していく。また新たなRPF・フラフ搬出先を営業部が率先して開拓を行っていく
・排出先の分別徹底の依頼	○	
・選別作業の徹底	○	
・搬出先(RPF、フラフ)の開拓	×	



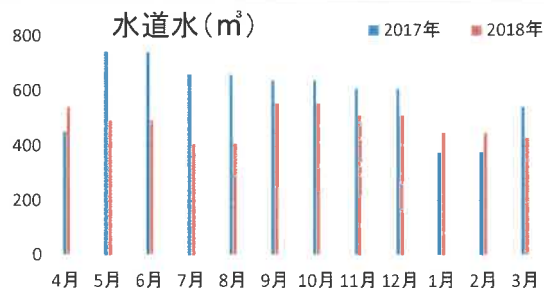
取組紹介欄

- ・作業員の手選別の教育、徹底
- ・営業による、排出事業者様への勉強会
- ・設備導入会社との3か月に1度の設備総点検による設備の安定稼働

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017年	73%	78%	77%	67%	77%	76%	74%	74%	64%	50%	44%	60%
2018年	70%	62%	55%	48%	52%	51%	57%	51%	69%	55%	49%	43%

神戸工場

水道水使用量の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	RPF製造量の減少における水使用量の削減はできているが、電気と同様、受入量が減っても、RPFの生産量が大きく減るわけではないので、来期は売上をベースとして原単位で計算していく。
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	
・製造工程の見直し	○	



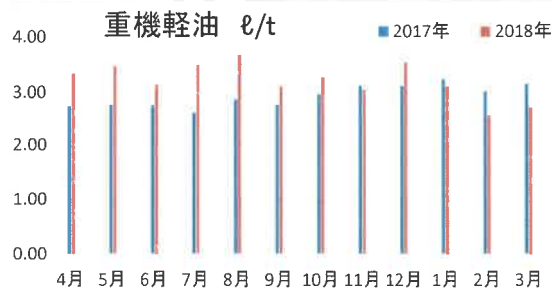
取組紹介欄

- ・節水の掲示
- ・RPF製造にロスがないよう、製造の教育

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017年	450	744	744	660	660	641	641	611	611	377	376	543
2018年	543	493	493	407	407	557	557	510	510	449	449	431

神戸工場

重機燃料使用量の削減(原単位)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	大型の重機に去年から入替、大幅に燃料使用が増えている傾向にある。ベテラン作業員の指導等で効率の良い使用を心掛ける。
・重機の点検	○	
・細かなエアブロー	○	
・ベテラン作業員の指導	△	



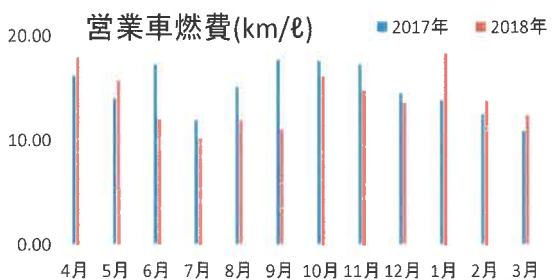
取組紹介欄

- ・作業員の教育
- ・アイドリングストップ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017年	2.74	2.76	2.74	2.61	2.86	2.76	2.96	3.12	3.12	3.24	3.02	3.15
2018年	3.33	3.47	3.13	3.49	3.68	3.10	3.27	3.04	3.55	3.09	2.58	2.72

神戸工場

車輦燃費の向上	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	下期に営業車両が減少した分、それが効率的な営業先訪問に繋がったと思われます。今後も効率的な営業先訪問を心掛けていきます。
・アイドリングストップ	○	
・効率的なルートでの営業活動	○	



取組紹介欄

- ・営業車両の台数見直し
- ・効率の良い営業ルート
- ・アイドリングストップの実施

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017年	16.20	14.06	17.33	12.02	15.18	17.79	17.67	17.39	14.60	13.95	12.61	10.96
2018年	17.93	15.79	12.02	10.24	12.01	11.12	16.16	14.84	13.66	18.37	13.86	12.50

大阪工場

□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2016年度	2017年度	2018年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	552,816	535,721	555,957
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	kg	-	-	210
総排水量	m ³	642	314	434

※二酸化炭素排出係数 0.493 kg-CO₂/kWh 電力会社の調整後の係数

□環境経営目標及びその実績 (期間 2018年4月1日～2019年3月31日)

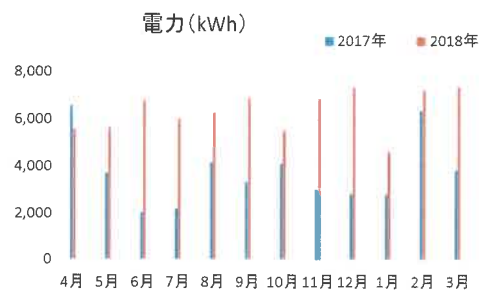
項 目		2017年度			評価	2019年度	2020年度
		基準年	目標	実績		目標	目標
電力使用量による二酸化炭素削減(原単位)	kg-CO ₂	22,579	-	37,679		21,902	21,676
	kWh/t	25.69	25.17	14.17	○	24.92	24.66
	基準年度比		98%	55%		97%	96%
都市ガス使用量による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	55	54	32	○	53	53
			-	-		-	-
	基準年度比		98%	58%		97%	96%
自動車・重機燃料使用量による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	513,088	502,826	518,247		497,695	492,564
	km/l(車輛)	4.96	4.94	4.96	○	5.11	5.16
	l/t(重機)	0.72	0.71	0.27	○	0.70	0.69
	基準年度比(Co2)		98%	103%		97%	96%
	基準年度比(km/l)		102%	100%		103%	104%
	基準年度比(l/t)		98%	120%		97%	96%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	535,721	-	555,957		519,650	514,292
一般廃棄物の削減	kg	0	現状把握	210		-	-
	基準年度比					98%	96%
水道水使用量の削減	m ³	314	308	434	×	305	301
	基準年度比		98%	138%		97%	96%

環境経営計画の取組結果とその評価

数値目標: ○達成 ×未達成

大阪工場

電力使用量による二酸化炭素削減(原単位)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	次年度より積替え保管施設の圧縮機などの使用が増え、電力が増加傾向にある。エネルギー量/搬出量の原単位での評価のため効率の良い稼働に努める。事務所の電気は無人時は消すなど、細かいことは率先して取り組んでいる。
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	○	
・電気スイッチに節電掲示	○	



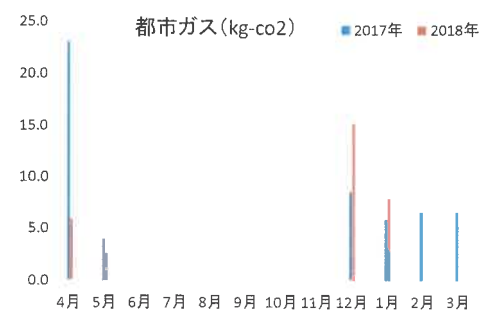
取組紹介欄

- ・クールビズにおける夏場の事務員軽装
- ・生産計画をたて、ロスのないよう効率の良い設備の稼働

kwh	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017年	6,608	3,713	2,036	2,204	4,162	3,335	4,124	3,029	2,826	2,826	6,386	3,839
2018年	5,614	5,661	6,830	6,026	6,256	6,937	5,535	6,864	7,391	4,625	7,278	7,411
kwh/t	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017年	25.01	6.13	8.76	37.29	55.13	26.57	37.53	65.99	102.23	54.66	141.60	28.78
2018年	44.20	14.91	24.51	22.71	15.61	15.26	9.97	10.10	13.29	9.30	19.67	8.95

大阪工場

都市ガス使用量による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	夏場でのお湯使用はほぼなく、前年度と変わりはないが、冬場にかけてお湯の温度設定をしっかりと設け、節ガスに励む。
・お湯の適正温度の見直し		



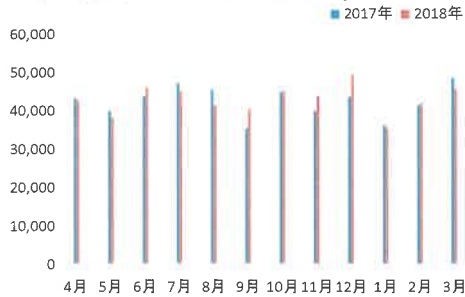
取組紹介欄

- ・夏場のお湯の温度を下げる
- ・冬場のお風呂場の冷気対策
- ・掲示による抑制

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017年	23.1	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.6	5.9	6.6	6.6
2018年	5.9	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.2	7.9	0.0	0.0

自動車・重機燃料使用量による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	今年度は、フラフ燃料事業がスタートし、重機の燃料使用量が増加。今後は当たりの原単位にて目標を設定。車両については、人員が増加し、稼働トラックが増え使用量も増加傾向。今後は売上当たりの原単位にて目標を設定する。
・アイドリングストップ	△	
・効率の良い配車	○	
・更新時に低燃費車を選択	○	

自動車・重機燃料による二酸化炭素削減(kg-co2)



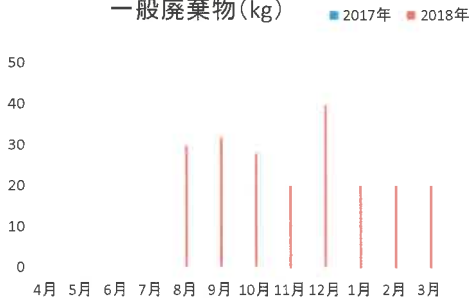
取組紹介欄

- ・営業活動のルート化
- ・アイドリングストップの教育
- ・各自車両の燃費把握による意識づけ
- ・構内一定速度の掲示による速度超過の抑制

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017年	43,561	40,255	43,984	47,510	45,691	35,593	45,205	40,218	43,935	36,412	41,843	48,881
2018年	42,961	38,458	46,267	45,326	41,664	40,668	45,355	44,038	49,684	35,747	42,202	45,877

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	-	現状を把握し、次年度からの削減に努める。
・一般廃棄物物量把握	○	
・紙類のRPF化	○	

一般廃棄物(kg)



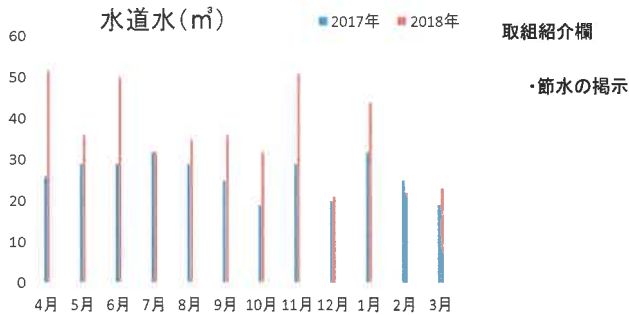
取組紹介欄

- ・ゴミ抑制の掲示

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2018年	0	0	0	0	30	32	28	20	40	20	20	20

大阪工場

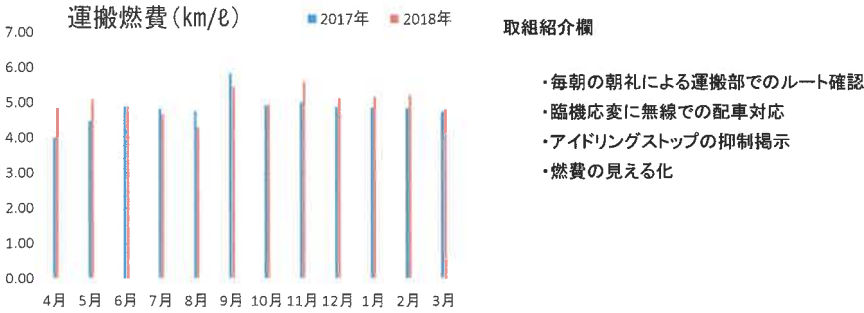
水道水使用量の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標 98%減	×	前年度より車両の増加も伴って、洗車水の使用量が増加していると思われます。もう一度洗車方法等を見直し削減に努めていく。
・洗車水の抑制	△	
・節水の掲示	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017年	26	29	29	32	29	25	19	29	20	32	25	19
2018年	52	36	50	32	35	36	32	51	21	44	22	23

大阪工場

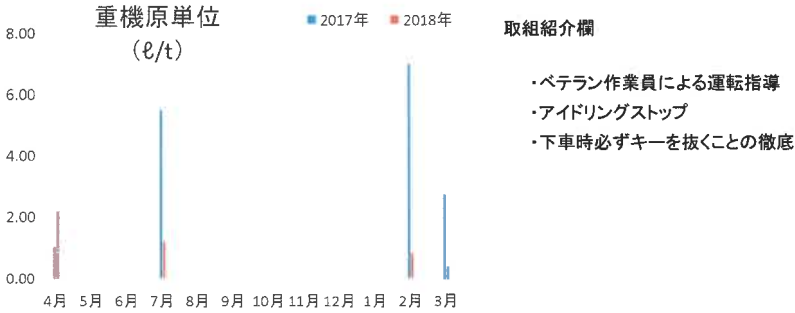
運搬車両燃費の向上	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	増車の兼ね合いもあり、排ガス規制の能力の良い車両へと切替つつある。また、ベテランの運転手による効率の良い配車、ルート指示が的確に行えているように思われる。しかし3か月の数値は未達に終わっている
・効率の良い配車	○	ので、年間を通してチェックしていくようにする。
・アイドリングストップ	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017年	4.00	4.50	4.89	4.84	4.78	5.85	4.94	5.03	4.90	4.88	4.86	4.76
2018年	4.86	5.12	4.89	4.69	4.31	5.47	4.97	5.62	5.15	5.19	5.25	4.82

大阪工場

重機燃料使用量の削減(原単位)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	-	取扱量が去年より増えているが、思った程、燃料の使用量は増加していない。次年度はさらに取扱い量が増えるため、引き続き取扱い量に対する原単位にて目標を定めていく。
・重機のメンテナンス	○	
・アイドリングストップ	○	

[illegible]

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

適用を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）	確認日
廃棄物処理法	収集運搬業、中間処理業、産業廃棄物処理委託 等	○ 2018.10.30
消防法	自動火災報知設備・消火器具の設置、神戸市指定可燃物届出、大阪市火災予防条例	○ 2018.10.30
騒音規制法	2軸破碎機、1軸破碎機、プレス機	○ 2018.10.30
振動規制法	2軸破碎機、1軸破碎機、プレス機	○ 2018.10.30
高圧ガス保安法	貯蔵・消費に関する技術上の基準	○ 2018.10.30
労働安全衛生法	安全衛生推進者の選任、蛍光X線分析装置設置の際の届出	○ 2018.10.30
計量法	定期検査の実施、登録番号を計量証明書への明記	○ 2018.10.30
自動車Nox・PM法	大阪市普通トラック排出基準の適合または猶予期間	○ 2018.10.30
道路交通法	安全運転管理者の選任・届出	○ 2018.10.30
アイドリングストップ条例	自動車の駐車における原動機の停止、排ガスの抑制	○ 2018.10.30
自動車リサイクル法	使用済自動車の引渡	○ 2018.10.30
グリーン購入法	物品購入時の県境物品の選択	○ 2018.10.30
フロン排出抑制法	フロンを含む機器等の廃棄、業務用エアコン等の年間点検等	○ 2018.10.30
家電リサイクル法	特定家庭用機器の廃棄時。	○ 2018.10.30
大阪府生活環境の保全に関する	車種規制適合車の運行	○ 2018.10.30
浄化槽法	保守点検、清掃	○ 2018.10.30
大気汚染防止法	一般粉塵施設の設置、変更、廃止	○ 2018.10.30
建築物省エネ法	特定建設物の届出	○ 2018.10.30
大阪市条例	資源化可能な紙類の持込禁止	○ 2018.10.30

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□緊急事態対応訓練

緊急事態の想定： 油類漏洩対策訓練	
■実施日： 2018年10月19日	■実施場所： 大阪工場
■参加者： 管理部 1名 運搬部 12名	■実施内容： ・車輛及び荷台から油が流出した際の緊急対応 手順書の変更の必要性 ☒ あり ☐ なし
■評価： ベテランの運転手から、新人の運転手まで、手順を再度確認し、運搬部全員に緊急時の対応の実演を行った。万が一の時でも、新人の運転手も迅速に対応できるよう、しっかりと手順が行き届いた。	
■実施状況の様子   	

緊急事態の想定： 火災訓練の発生	
■実施日： 2018年5月・11月	■実施場所： 神戸工場、神戸事務所
■参加者： 工場作業員 13名 事務員 18名	■実施内容： ・火災時避難訓練、緊急時ハシゴ脱出 手順書の変更の必要性 ☒ あり ☐ なし
■評価： 工場内での火災が発生した際の避難、消火訓練に加え、今年は事務所棟4階からの非常階段が使えない場合を想定し、避難ハシゴでの脱出訓練を試みた。万が一に備え、従業員の防衛意識を高める結果となった。	
■実施状況の様子     	

□代表者による全体の評価と見直し・指示

【取組結果】	
＜情 報＞	＜見直し・指示＞
◇自社を取り巻く環境問題の変化 ・RPF納品先の受入量制限 ・処分費用の値上がり ・廃プラスチック類の海外輸出STOPによる物量の増加	◇環境方針 ・見直しなし
◇環境経営目標・計画の達成状況 ・3ヵ月試用期間の未達あり	◇環境経営目標・環境経営計画 ・目標未達は年間を通して様子を見る
◇その他 ・利害関係者からの要請→RPFの塩素濃度 ・プラフ原料の搬出先開拓	◇実施体制他 ・見直しなし
エコアクション21の取り組みという事で、2018年8月から運用を始め、事業活動の拡大の中で目標を達成できていない項目もあったが、年間を通し、今年度は状況を把握していきたいと思います。この結果を全従業員が把握し、目標達成に各部署で注力していきたいと思います。 新人には教育を徹底し、従業員全体の労働環境の改善、また当社の目標であるリサイクル率の向上を図るべく、営業部を中心に、排出事業者様への廃棄物の講習会を開くなど、情報を発信していきたいと考えています。また、工場内の安全面をしっかりと指導し、火災や事故、怪我のないよう努めてまいります。	

環境経営方針	☒ 変更なし	☐ 変更あり
環境経営目標・計画	☒ 変更なし	☐ 変更あり
実施体制	☒ 変更なし	☐ 変更あり

□これまでの環境活動の紹介

★循環型エネルギー RPF について

当社では様々な廃棄物を集め、自社の工場で選別・破砕を行い、再生利用困難な廃プラスチックと木くず、紙くずから固形燃料を製造しています。

固形燃料は「Refuse derived paper and plastics densified Fuel」を略してRPFといい、石炭の代替品として製紙会社など様々な場所でボイラー燃料として使用されています。RPFの特徴として、二酸化炭素の排出量の抑制と、灰の発生率も抑制されるため、環境にも良く、長期にわたり安定した供給先があるとともに、小型で高密度なため、石炭と同等の発熱量でありながら、低価格なのでコストダウンの計れる再生資源燃料となっています。

当社では、多種多様な混合廃棄物を、作業員の手作業を始め、高度な機械を使いRPFの原料となる廃棄物を選別することが可能です。

★事業の透明化

・インターネット上にて、当社のHPを掲載していると共に、産業廃棄物処理業者が利用する「さんぱいくん」にて年間の処分実績、RPF製造実績等情報公開・事業の透明化に努めています。

西部サービスHP	http://www.seibu-recycle.co.jp/index.html
さんぱいくん	http://www2.sanpaunet.tr.jp/zyohou/index.php

★その他取組事項



①



②



③④

- ① 神戸工場内 LED対応！
- ② 神戸工場屋上にて 太陽光発電の実施！（2018年度発電量：143,693kwh）
- ③ 全収集・運搬車輛にドライブレコーダーの搭載！
- ④ 営業車両 ハイブリッド車の導入 80%！

⑤ 2018年10月4日

台湾のバイオマス推進協会にあたる「台湾生質能技術発展協会」の視察団総勢19名の方々が、西部サービス㈱神戸工場の施設見学に来られました。日本だけでなく、台湾も同じようにエネルギー問題、環境問題をかかえており、弊社のRPF技術を学んで頂き、いろいろな情報交換をさせて頂きました。



⑥2018年11月16日

不適物・危険物安全講習会の実施

お持込み業者様にお越し頂き、リチウムイオン電池等の火災の原因となる不適物・危険物に対する講習会を実施しました。処理設備に入るとどのような影響で火災に至るか、また弊社としての対策事項等、危険性・安全面について講習会を実施しました。お客様のご協力を頂きながら、安定稼働・安全操業に努めていきたいと思ひます。



⑦周辺地域の清掃活動

